

大 会 役 員

会 長	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会会長	延與 桂
副 会 長	東京都スポーツ推進本部長	渡邊 知秀
	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長	森田 英二
	〃	平塚 雄二
	〃	立原 麻里子
役 員	東京都スポーツ推進本部パラスポーツ担当部長	上山 亜紀子
	東京都スポーツ推進本部スポーツ総合推進部パラスポーツ課長	前原 淳
	東京都スポーツ推進本部スポーツ総合推進部競技担当課長	大熊 亮
	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会顧問	
	市川 健一 菊地 和則 古平 光市	柴崎 正次
	白石弥生子 矢内 信夫 吉田 力男	
	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会専務理事	山根 誠治
	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会理事	
	阿部 正幸 栗野 達人 伊賀 保夫	市川 元章
	今井 康之 植田 敏郎 小原誠太郎	角田 真司
	加藤みさ子 川村 和利 小関 直樹	櫻井 京子
	瀬川 聖美 土田和歌子 早崎 道晴	松浦 孝明
	杉本 賢司 (監事) 高橋 博則 (監事)	

実 行 委 員

実行委員長	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長	平塚 雄二
副実行委員長	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会専務理事	山根 誠治
実 行 委 員	植田 敏郎 小原誠太郎 江木ひかり 鈴木 常義	高野 昌明
	三浦 卓也 柚木 秀彦 岡澤 政子 須貝 栄作	矢内 信夫
	小峰 久美 稲木 祐二 飛田 貴子 石飛 了一	新井由希枝
	長尾 英治 小関 直樹 小嶋 祐希 井上 一仁	西應 大輔
	大嶋 義昭 飯塚 史郎 瀬川 聖美 大塚 一乃	大沼 孝
	藤田 勝敏 佐々木ゆみ 瀬上 健司 小木曾大夢	高橋 里佳
	丹 美幸 池澄 乃愛 山中やすよ	

大会実施規模

1. 参加者

(1) 参加者 200 団体及び個人 (予定)

(福祉施設、作業所、通勤寮、特別支援学校、盲学校、ろう学校、特別支援学級、クラブ、障害者団体、競技団体、個人)

(2) 出場選手数 4, 535 名 (予定)

【個人競技】

陸上競技	身体	471 名
	知的	489 名
	精神	21 名
水泳	身体	115 名
	知的	410 名
卓球	身体	85 名
	知的	127 名
	精神	38 名
サウンドテーブルテニス	身体	54 名
アーチェリー	身体	20 名
ボッチャ	身体	54 名
フライングディスク	身体	41 名
	知的	254 名
	精神	38 名
ボウリング	知的	187 名

【団体競技】

バスケットボール(社会人の部)	知的(団体)	118 名	(個人) 20 名
バレーボール	知的	116 名	
ソフトボール	知的	70 名	
サッカー	知的(団体)	351 名	(個人) 26 名
バスケットボール(学生の部)	知的(団体)	60 名	(個人) 10 名
車いすバスケットボール	身体	80 名	(予定)
フットソフトボール	知的	20 名	(予定)
グラウンドソフトボール	身体	60 名	(予定)
スポーツの集い	知的	1,000 名	(予定)
バレーボール	精神	100 名	(予定)
バレーボール	身体	100 名	(予定)

2. 大会協力者

(1) 大会役員 (競技審判員、運営役員) 1, 500 名

(2) 大会協力者 (学生、社会人、団体ボランティア等) 5, 000 名

(3) 来賓 100 名

第26回東京都障害者スポーツ大会実施要領

1 目的

この大会は、障害者がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、都民の障害者に対する理解の増進を図り、もって障害者の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的とする。

また、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねたものとして開催する。

2 主催

東京都、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

3 運営

第26回東京都障害者スポーツ大会実行委員会

4 後援

特別区長会、東京都市長会、東京都町村会、世田谷区、港区、北区、板橋区、練馬区、江東区、国立市、(公財)東京都体育協会、(公財)東京都スポーツ文化事業団、(一財)東京都弘済会、(社福)東京都手をつなぐ育成会、(公社)東京都身体障害者団体連合会、(公社)東京都盲人福祉協会、(公社)東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟、(社福)NHK厚生文化事業団、(特)東京都発達障害支援協会、東京都立特別支援学校長会、東京都特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会、全国聾学校長会、東京都盲学校長会、東京都肢体不自由特別支援学校長会、東京都知的障害特別支援学校長会、東京都知的障害特別支援学校PTA連合会、東京都公立小学校長会、東京都中学校長会、東京都公立高等学校長協会、(一財)東京私立中学高等学校協会、全国特別支援教育推進連盟、(社福)東京都社会福祉協議会、(公財)東京都公園協会、(公財)国際障害者年記念ナイスハート基金、(公財)日本チャリティ協会、(公財)日本社会福祉弘済会

5 特別協賛

特別区長会、東京都市長会、東京都町村会、ライオンズクラブ国際協会330-A地区、(一財)東京都弘済会、(公財)東京都スポーツ文化事業団、(社福)東京都社会福祉協議会・東京善意銀行

6 協賛

(社福)東京都手をつなぐ育成会、(一社)東京都馬主会、東京都パラスポーツ指導者協議会、三菱商事(株)、日本電気(株)、(株)オーエンス、ハウスコム東東京(株)／ハウスコム西東京(株)、(株)ゼンコー、東京地下鉄(株)、日本自動車ターミナル(株)、東京都競馬(株)、(株)日進産業、(株)サイオー、(一財)東京都弘済会、日本労働組合総連合会東京都連合会、(株)CAC Holdings、PwC Japanグループ、(株)大塚商会、学校法人藤村学園東京女子体育大学・東京女子体育短期大学、トヨタモビリティサービス(株)、(株)ブリヂストン、広友物産(株)、(株)環境管理センター、帝京平成大学、(株)オープンハウスグループ、(公財)日本チャリティ協会、(社福)はばたき、東京障がい者バドミントン連盟、東京福祉大学・大学院、(公社)東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟、(公社)東京都盲人福祉協会、東京都知的障害特別支援学校PTA連合会、(一社)東京都肢体不自由児者父母の会連合会、(株)東京エイドセンター、(株)東伸企画、(有)東京福祉企画、(株)グロリアツアーズ、名鉄観光サービス(株)、京王自動車バスサービス(株)、ミズノ(株)、グッド・リッチ(株)、東京都知的障がい者サッカー連盟、葉月システム(株)、東京メトロポリタンテレビジョン(株)、乃木坂ナイツ、ぜんち共済(株)、東京都生活協同組合連合会、あおば損害調査(株)、(一社)東京労働者福祉協議会、東京都スポーツウェルネス吹矢協会、堀江車輛電装(株)、日本カルミック(株)、(公財)東京都人権啓発センター、ライフネット生命保険(株)、(株)BRAIN、セノー(株)、(公財)東京都スポーツ文化事業団、(株)ユニバーサルトレーニングセンター、(一社)キッズ&ファミリンピック実行委員会、ベーカー&マッケンジー法律事務所、ヨーロッパ・アシスタンス・ジャパン(株)、ブルークリーン(株)、大塚製薬(株)、(株)モルテン、(株)D&M、ナガセケンコー(株)、伊藤忠商事(株)、日本卓球(株)、ナショナルハット(株)、生活協同組合コープみらい、学校法人帝京大学、(有)ジーワーク、(公財)鉄道弘済会義肢装具サポートセンター、富士瓦斯(株)、東京都国民健康保険団体連合会、(株)セントラルプラザ／ラムラショッピングセンター、(株)多摩流通、(一社)東京都LPガス協会、(株)都政新報社、(社福)豊心会ふれあいファクトリー、(株)大塚商会城北営業部大塚支店、(有)ジャパンリハビリテーションエンジニアリング、東京馬場先門ライオンズクラブ、野々屋、(株)フォレスト、(株)トリデ、サントリービバレッジソリューション(株)、フルテック(株)国立営業所、(有)エックスワン、(株)草庵、(有)アーネストジャパン、(株)指田園、(株)松竹園、日本エンドレス(株)、伊藤スポーツ、(株)高橋運動具店、(一社)東京バス協会、(一社)東京都交友会、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、その他当協会会員

7 協 力

(公財)東京陸上競技協会、(公財)東京都水泳協会、(一社)東京都卓球連盟、(一社)東京都バスケットボール協会、(公財)東京都バレーボール協会、(公財)東京都サッカー協会、東京都ソフトボール協会、東京都障害者フライングディスク協会、東京都障害者水泳連盟、東京都知的障がい者陸上競技連盟、東京都IDボウリング連盟、東京都車いすバスケットボール連盟、東京都IDバスケットボール連盟、東京身体障害者卓球連盟、東京都身体障害者アーチェリー協会、東京都知的障がい者サッカー連盟、精神障害者地域生活支援とうきょう会議、東京都パラスポーツ指導者協議会、日本ボーイスカウト東京連盟、(一社)ガールスカウト東京都連盟、日本赤十字社医療センター、国立病院機構東京医療センター、世田谷区手話通訳等派遣センター、ミチル会、(公財)日本ライフセービング協会、赤十字語学奉仕団、健康向上企画、馬三バスケットボール同好会「リングコング」、ピポット、わくわく2001、八幡FDクラブ、つばさクラブ、流通経済大学、日本体育大学、早稲田大学、日本女子体育大学、東京女子体育大学・東京女子体育短期大学、国立障害者リハビリテーションセンター学院、明治大学社会福祉研究部、明治大学身心障害者福祉社会しいの実、文京学院大学、帝京平成大学、立教大学、東京都立大学、東洋大学バリアフリーサークル歩み、貞静学園短期大学、日本福祉教育専門学校、東京成徳大学、東京ホスピタリティアカデミー、成女高等学校、東京保健医療専門職大学、貞静学園高等学校、東京都立つばさ総合高等学校、日本大学第二高等学校水泳部、東洋女子高等学校、東京都立総合工科高等学校、成城学園、順天中学校 他

8 実施競技・会場等

別紙のとおり

9 参加資格

出場選手は次のいずれかの条件を満たす者とする。

- (1) 身体部門は、身体障害者福祉法第15条の規定により、身体障害者手帳の交付を受けた者、あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者で令和7年4月1日現在中学生以上の者。
- (2) 知的部門は、厚生事務次官通知による療育手帳(愛の手帳)の交付を受けた者、あるいはその取得の対象に準ずる障害のある者で令和7年4月1日現在小学生以上の者。
- (3) 精神部門は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者、あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者で令和7年4月1日現在中学生以上の者。

※原則として、都内に現住所を有する者。ただし、都内に所在する学校や障害者支援施設等団体に所属している者は、参加しても差し支えないものとする。(各部門共通)

10 健康管理

- (1) 競技に際し健康上支障のない者とし、自己の責任において参加することとする。
特に、参加にあたり自己の障害及び体調に不安がある場合は事前に医師に相談すること。
- (2) 主催者においては、応急の処置を除き一切責任を負わないものとする。

11 参加費

無料(但し、ボウリングは、ハウスシューズを借用する場合は各自の負担とする。)

12 参加制限

(身体部門)

- (1) 個人競技、団体競技にかかわらず複数の競技に参加することができる。ただし、同じ日に実施する競技には参加することはできない。
- (2) 陸上競技については、ひとり1種目の参加とする。
- (3) 水泳については、ひとり2種目までの参加とする。

(知的部門)

- (1) 個人競技、団体競技にかかわらず複数の競技に参加することができる。ただし、同じ日に実施する競技には参加することはできない。
- (2) 陸上競技については、ひとり1種目の参加とする。
- (3) 水泳については、ひとり2種目までの参加とするが、加えてリレー1種目に参加することができる。

(精神部門)

- (1) 個人競技、団体競技にかかわらず複数の競技に参加することができる。ただし、同じ日に実施する競技には参加することはできない。
- (2) 陸上競技については、ひとり1種目の参加とする。

(3) 実施競技は、陸上競技、卓球、フライングディスクとする。

13 競技規則

令和7年度公益財団法人日本パラスポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び本大会「申し合わせ事項」を適用する。

14 表彰

(身体部門)

- (1) 個人競技については男女別、障害区分別及び年齢区分別に各種目(組)の3位までにメダルを授与する。
- (2) フライングディスク競技の表彰は、各組ごとの表彰とし、3位までにメダル、4位以下には敢闘賞を授与する。
- (3) 団体競技については3位まで表彰する。ただし、3チーム以下の場合、最下位は表彰しない。

(知的部門)

- (1) 個人競技については男女別、年齢層別に各種目(組)の3位までにメダルを、4位以下には敢闘賞を授与する。団体競技もこれに準ずる。
- (2) フライングディスク競技の表彰は、各組ごとの表彰とし、3位までにメダル、4位以下には敢闘賞を授与する。
- (3) 団体競技については3位まで表彰する。更に優勝チームについては、「原田之稔杯(対象：バスケットボール、バレーボール、サッカー)」、「能村藤一杯(対象：ソフトボール、フットソフトボール)」を授与する。

(精神部門)

- (1) 個人競技については男女別、年齢区分別に各種目(組)の3位までにメダルを授与する。
- (2) フライングディスク競技の表彰は、各組ごとの表彰とし、3位までにメダル、4位以下には敢闘賞を授与する。
- (3) 団体競技については3位まで表彰する。

15 大会開催の可否決定

大会開催前又は大会開催中に天災地変、疫病等の非常事態が起きた場合や、政府又は東京都から各種要請が発出された場合などは、実行委員会(競技部会)の意見を踏まえて、主催者間で協議し、開催の可否を決定する。

16 申込方法

●インターネットによる申し込み

下記ホームページの入力フォームから必要事項を入力し、「参加に関する誓約事項」に同意の上、期限内に申し込むこと。

申込みURL：<https://tokyo-totaikai.com/>

※インターネット申し込みについては、スマートフォンからの申し込みも可能であるが、パソコンでの申し込みを推奨する。

●郵送または持参による申し込み

所定の申込書に必要事項を記入し、「参加に関する誓約事項」に同意の上、期限内に申し込むこと。

東京都障害者スポーツ協会ホームページ：<https://tsad-portal.com/tsad>

申込先：公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ12階

※持参の場合は締切日の17時までとする。

※申し込む際に『参加誓約書』を全員提出すること。

※FAXでの申し込みは受付できないので注意すること。

- (1) 都外在住で都内に所在する学校・障害者支援施設・団体に所属している者は、その所属で団体申し込みを行うこと(個人での申し込みはできない)。
- (2) 所属は1人1団体(または個人)とし、別々の団体から申し込むことはできない。
- (3) 団体として申し込む場合は、団体総括表に必要事項を記入し、参加申込書と一括して申し込みすること。
- (4) 学校、施設、団体は一括し、インターネットまたは郵送、持参にて申し込むこと。

- (5) 参加申込書の控えは各自で保管すること。
- (6) 申し込み時18歳未満の場合は、保護者の同意を得ること。

17 申込期限 ※インターネット申込も同様。

期限を過ぎた場合は、申し込みを受け付けることはできないので注意すること。

●個人競技申込

…個人参加及び学校（特別支援学校・学級、一般校）、施設等団体の在籍者

令和7年3月10日（月）17時

※郵送の場合は、令和7年3月10日（月）の消印を有効とする。

●個人競技特例二次申込

…学校（特別支援学校・学級、一般校）や障害者支援施設の新入生・新規利用者が対象

令和7年4月9日（水）17時

※特例二次申込は団体（学校、障害者支援施設）が統括して申し込むこと。

個人での申し込みは受け付けない。

※障害者スポーツセンター新規利用者及びクラブチームの新規加入を理由とした申し込みは特例二次申込では認めない。

※郵送の場合は、令和7年4月8日（火）の消印を有効とする。

●団体競技申込

… **令和7年4月9日（水）17時**

※郵送の場合は、令和7年4月9日（水）の消印を有効とする。

※団体競技の「チーム構成表」の修正締め切りは令和7年4月14日（月）に必着とする。

18 問合せ先

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 スポーツ振興部 事業推進課

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ12階

(分室) TEL 03(6265)6001 FAX 03(6265)6077

※FAXは問い合わせのみとし、申し込みの受付はできないので注意すること。

19 その他

- (1) プログラムには氏名・所属団体（個人参加の場合は在住地区名）・障害区分番号を記載し、参加者及び競技役員等に配布する。適切な業務運営に必要と認められる目的以外に利用もしくは第三者への開示、提供は行わない。
- (2) 原則として、申し込み締め切り後の記載事項の変更はできない。
- (3) プログラム等の発送は、令和7年5月9日（金）以降とする。
但し、サウンドテーブルテニスおよび水泳、ソフトボールについては、令和7年5月7日（水）以降に発送する。
- (4) 予め申請を行い競技場内への入場を許可された者以外は、審判並びに競技進行の妨げとなるので競技場内へは入らないこと。また、競技場内での撮影、応援は禁止する。
- (5) 大会の映像・写真・記事・記録など（氏名・年齢・性別・記録・肖像などの個人情報）が新聞・テレビ・雑誌・インターネット・パンフレットなどに報道・掲載・利用されることを承諾するものとする。
- (6) 駒沢公園の駐車場確保が難しいため、公共交通機関または、大会シャトルバスの利用をお願いする。駐車場の使用は、車を使用しないと来場できない選手のみとし、選手の乗車していない車両の駐車は認めない。必要な場合は事前申し込みとするので、申し込みの際に備考欄に記入すること。
また、他会場は駐車場の確保はできないので、公共交通機関を利用すること。
- (7) 大会当日の落とし物については、各大会会場に問い合わせをすること。

20 附則

5月・6月実施分以外の下記の競技については、別途実施要領を定め実施するものとする。
スポーツの集い/バスケットボール（学生の部）/車いすバスケットボール/
フットソフトボール/グランドソフトボール/バレーボール(精神部門・身体部門)

競技	日程	会場
合同開会式	令和7年5月10日(土)	東京体育館 メインアリーナ
水泳 (身体・知的部門)	令和7年5月17日(土)・18日(日) 午前9時から午後5時	東京アクアティクスセンター メインプール
サウンドテーブルテニス (身体部門)	令和7年5月18日(日) 午前9時から午後5時	東京都多摩障害者スポーツセンター 集会室 等
フライングディスク (身体・知的・精神部門)	令和7年5月24日(土) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場
ボッチャ (身体部門)	令和7年5月24日(土) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場
陸上競技 (知的部門)	令和7年5月24日(土)・25日(日) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場
卓球 (身体・知的・精神部門)	令和7年5月24日(土)・25日(日) 午前9時から午後5時	東京都障害者総合スポーツセンター
ボウリング (知的部門)	令和7年5月25日(日) 午前9時から午後5時	東京ポートボウル
陸上競技 (身体・精神部門)	令和7年5月31日(土) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場・補助競技場
アーチェリー (身体部門)	令和7年6月1日(日) 午前9時から午後5時	東京都障害者総合スポーツセンター 洋弓場
ソフトボール (知的部門)	令和7年5月18日(日) 午前9時から午後5時	光が丘公園 野球場
サッカー (知的部門)	令和7年5月25日(日) 6月 1日(日) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 第二球技場・補助競技場
バレーボール (知的部門)	令和7年5月31日(土) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場
バスケットボール (知的部門)	令和7年5月31日(土)・1日(日) 午前9時から午後5時 令和7年8月7日(木)・8日(金) 午前9時から午後5時	板橋区立小豆沢体育館 室内競技場 (5月31日・6月1日) 社会人の部 駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場 (8月7日・8月8日) 学生の部
車いすバスケットボール (身体部門)	令和7年8月30日(土) 午前9時から午後5時	武蔵野市立武蔵野総合体育館 メインアリーナ
フットソフトボール (知的部門)	令和7年9月27日(土) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 軟式野球場
グランドソフトボール (身体部門)	令和7年11月16日(日) 午前9時から午後5時	武蔵野中央公園 スポーツ広場
スポーツの集い (知的部門)	令和7年12月11日(木) 午前9時から午後5時	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場(予定)
バレーボール (精神部門)	令和8年2月7日(土) 午前9時から午後5時	東京体育館 サブアリーナ
バレーボール (身体部門)	令和8年2月14日(土) 午前9時から午後5時	東京体育館 サブアリーナ

全国障害者スポーツ大会に係る選手選考及び派遣について

- (1) 令和7年4月1日現在で13歳以上の者とする。
- (2) 身体部門で身体障害者手帳未取得者は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手の対象とはならない。「ぼうこう又は直腸機能障害」以外の内部障害が主障害の者（以下「その他の内部障害」）は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手の対象とはならない。
- (3) 知的部門で療育手帳未取得者は、児童相談所・知的障害者更生相談所長の判定書の写し、医師の診断書、在籍または卒業（退所）先の所属長による「取得の対象に準ずる障害」の証明書のいずれかの提出が必要となる。
- (4) 精神部門で精神障害者保健福祉手帳未取得者については、自立支援医療（精神通院）受給者証取得者のみ対象とする。
- (5) 全国障害者スポーツ大会申込時に都内に現住所（住民票のある地）を有する者とする。但し、都内に所在する学校や障害者支援施設に通学並びに入所、通所している者は参加できるものとする。
- (6) 個人競技の派遣候補選手は、第26回東京都障害者スポーツ大会個人競技申し込みの全国大会参加希望欄で「あり」を選択した者より選考する。申込書に記載が無い場合は、「なし」と判断する。
- (7) 派遣候補選手は、原則として練習会及び大会派遣期間の全日程に参加できる者を選考する。
※派遣場所、日程などを考慮し、派遣期間に堪え得る体力や健康を有し、東京都選手団の一員として練習会・結団式・本大会派遣期間等において、集団生活や行動に適応できる者とする。
- (8) 派遣候補の個人競技の選手は、6月第3週目までに個別で候補選手面談を行う（予定）。候補に選ばれた際には、電話等で連絡を行う。
- (9) 派遣選手は、当協会が設置する選考委員会で選考する。なお、選考方法等については、「選考規程」による。個人競技については、前年度選考され全国大会に申込みをした者は、競技を問わず選考の対象とならない。また、団体競技については、本大会を選考大会のひとつとする。
- (10) 今年度の全国障害者スポーツ大会は、令和7年10月25日(土)～27日(月)に滋賀県で開催される。東京都選手団は、10月23日(木)～10月28日(火)（予定）で派遣する。
- (11) 全国障害者スポーツ大会の広報のため、障害区分(重複障害含む)、年齢区分、氏名、選手団名、競技中の写真および競技記録等について、主催者または派遣元(東京都及び東京都障害者スポーツ協会)が広報媒体への掲載を行う場合がある。

第 24 回全国障害者スポーツ大会東京都選手団選考実施要綱

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

1 東京都選手団選考会

- (1) 令和 7 年度「第 24 回全国障害者スポーツ大会（わた SHIGA 輝く障スポ）」に派遣する東京都選手団選手候補者の選考会を、第 26 回東京都障害者スポーツ大会に含めて実施する。
- (2) 期日、会場、種目、参加要領等は、第 26 回東京都障害者スポーツ大会実施要領の通り。
- (3) 参加者の募集
 - ① 第 26 回東京都障害者スポーツ大会の募集と兼ねる。
 - ② 個人競技の派遣候補選手は参加申込用紙の「全国障害者スポーツ大会参加希望欄」で「あり」を選択した者から選考する。

2 東京都選手団候補者の資格（全国障害者スポーツ大会開催基準要綱に基づく）

- (1) 13 歳以上（令和 7 年 4 月 1 日現在）の知的、身体、精神障害者で、東京都内に現住所があること。学校に通学している者及び施設に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在地が東京都内であること。
- (2) 原則として第 26 回東京都障害者スポーツ大会出場者。（団体競技はこの限りでないことがある）
- (3) 東京都選手団として行動を共にできる者。
- (4) 原則として練習会・結団式を含めて全日程に参加できる者。

3 選手候補者の選考及び決定

- (1) 選手候補者は、当協会の選考委員会において選考する。
- (2) 個人競技の候補者は、選考会の記録・成績と全国大会及び東京都大会記録を勘案し、また全国大会出場未経験者の出場にも配慮するとともに、障害種別、性別、年齢等選手団全体の構成も鑑み選出する。
- (3) 団体競技については、7 競技 12 チームを派遣する。また、全国大会派遣メンバーは、本大会を選考大会のひとつとし、優秀な選手を選抜する。

第24回全国障害者スポーツ大会東京都選手団の概要

1 東京都選手団の概要（予定）

派遣人数：総数 400 名（選手 291 名 / 役員 109 名） ※人数はすべて予定

① 個人競技：134 名（役員 69 名）

陸上競技 63 名 / 水泳 19 名 / アーチェリー 4 名 / 卓球 22 名 /

フライングディスク 16 名 / ボウリング 8 名 / ボッチャ 2 名

② 団体競技：157 名（役員 40 名）

バスケットボール（男子） 12 名 / バスケットボール（女子） 12 名 /

車いすバスケットボール 12 名 / グランドソフトボール 15 名 /

ソフトボール 15 名 / バレーボール（身体・男子） 12 名 /

バレーボール（身体・女子） 12 名 / バレーボール（知的・男子） 12 名 /

バレーボール（知的・女子） 12 名 / バレーボール（精神） 12 名 /

サッカー 16 名 / フットソフトボール 15 名

2 東京都選手団日程（予定）

結団式 令和 7 年 10 月 5 日（日）

派遣期間及び内容 10 月 23 日（木） 集合・出発

24 日（金） 公式練習・監督者会議

25 日（土） 開会式・競技

26 日（日） 競技

27 日（月） 競技・閉会式

28 日（火） 帰京

3 第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」 概要

〔開閉会式〕 平和堂 H A T O スタジアム（彦根総合スポーツ公園陸上競技場）

〔個人競技〕

陸上競技 平和堂 H A T O スタジアム（彦根総合スポーツ公園陸上競技場）

水泳 インフロニア草津アクアティクスセンター（草津市立プール）

アーチェリー 愛荘町スポーツセンター秦荘グラウンド

卓球（S T T） 野洲市総合体育館

フライングディスク 甲賀市水口スポーツの森

ボウリング ラピュタボウル彦根

ボッチャ 甲賀市水口体育館

〔団体競技〕

バスケットボール 滋賀ダイハツアリーナ（滋賀アリーナ）

車いすバスケットボール 滋賀ダイハツアリーナ（滋賀アリーナ）

ソフトボール 高島市今津総合運動公園（第1グラウンド・第2グラウンド）

グランドソフトボール 東近江市総合運動公園（布引多目的グラウンド）

バレーボール（身） 近江八幡市立運動公園体育館

バレーボール（知） 湖南市総合体育館

バレーボール（精） 草津市立総合体育館

サッカー 野洲川歴史公園サッカー場（ビッグレイク）

フットソフトボール 県民共済ドーム長浜（滋賀県立長浜ドーム）

医療体制

1 業務内容

各会場の、選手・ボランティア・引率付添者・観戦応援者・来賓・役員等一切の参加者の、怪我や発病の訴えに対する初期治療及び緊急症状の救急対応にあたる。また、緊急事態発生時の救護に当たる。

2 配置一覧

〔駒沢会場〕 配置員 山根誠治(協会)、藤田勝敏(協会)、岡澤政子(東知陸連)、飛田貴子(東障フ協会)、
稲木祐二(東ボ協会)、柚木秀彦(東身陸部会)、小関直樹(東知バ部)
長尾英治(東知サ連)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月24日(土) 5月25日(日)	陸上競技(知的部門) フライングディスク	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場	794人	加藤 貴行 佐藤 広之 岡本 沙織 三澤 朋子	各日2名
5月25日(土)	ボッチャ	屋内球技場	54人		1名
5月25日(日) 6月1日(日)	サッカー	補助競技場 第二球技場	351人		各日2名
5月31日(土)	陸上競技 (身体・精神部門)	陸上競技場 補助競技場	492人		3名
5月31日(土)	バレーボール(知的部門)	屋内球技場	116人		1名

〔江東区会場〕 配置員 山根誠治(協会)、藤田勝敏(協会)、佐々木ゆみ(協会)
須貝栄作(都障水連)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月17日(土) 5月18日(日)	水泳	東京アクアティクスセンター メインプール	525人		各日1名

〔練馬区会場〕 配置員 平塚雄二(協会)、井上一仁(東知ソ部)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月18日(日)	ソフトボール	光が丘公園 野球場	70人		1名

〔北区会場〕 配置員 早崎道晴(協会)、矢内信夫(東身卓連)、新井由希枝(東身ア協)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月24日(土) 5月25日(日)	卓球 (身体・知的・精神部門)	東京都障害者総合 スポーツセンター	250人		各日1名
6月1日(日)	アーチェリー	東京都障害者総合 スポーツセンター	20人		1名

〔板橋区会場〕 配置員 森田英二(協会)、小嶋祐希(東IDバ連)、小嶋隆司(東IDバ連)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月31日(土) 6月1日(日)	バスケットボール(知的部門)	板橋区立小豆沢体育館 室内競技場	138人		各日1名

〔港区会場〕 配置員 大沼 孝(協会)、石飛了一(東IDボ連)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月25日(日)	ボウリング	東京ポートボウル	187人		1名

〔国立市会場〕 配置員 村松重太(協会)、小峰久美(東STT協会)

日程	実施競技	会場	参加選手数	医師	看護師
5月18日(日)	サウンドテーブルテニス	多摩障害者 スポーツセンター	54人		1名

3 留意点

- ① 迅速な初期対応を心掛けるが、その程度を超える場合は、各事務所を通じ、救急車の手配及び病院への診断治療要請する。
- ② 各会場に、救護係を配置し、緊急時に備える。
- ③ 各会場には、応急処置用の救急バッグ等を準備する。
(消毒液、カットパン、包帯、湿布薬、テーピング類等)

4 救急病院

- ① 駒沢会場 国立病院機構東京医療センターに救急患者対応依頼。
玉川消防署に救急車の要請。
- ② 江東区会場 大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)
- ③ 練馬区会場 大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)
- ④ 北区会場 事務所もしくは大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)
- ⑤ 板橋区会場 大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)
- ⑥ 港区会場 大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)
- ⑦ 国立市会場 大会競技本部より救急患者対応依頼。(救急車要請)

協会シンボルマークの紹介

平成15年全国より公募し、小学生から高齢者の方、また多種多様な職業の方から141名(224点)の応募があり、障害者スポーツの認知度が全国的に広がっていることを実感しました。

「障害のある人の生涯スポーツがますます発展していくもの、障害者のスポーツ振興を図る中心となる協会をイメージしたもの」という選考規定に基づき審査委員会での白熱した審査の結果、兵庫県の福田大介さんの作品を大賞に決定しました。

協会シンボルマーク



デザインコンセプト

このマークは障害者のためのスポーツという枠にとらわれず、スポーツの楽しさや躍動感を表現、一人の選手が大空に向かって大地を蹴り、鳥のように羽ばたく瞬間をイメージすると同時に東京都の「と」の文字を図案化しています。

またマーク全体のフォルムはSPORTS(スポーツ)の頭文字「S」をシンボリックに表現したものです。

イメージカラーは大空と大地です。

大会メダルと作者の紹介

大会メダル



デザインコンセプト

大きな手に支えられ、明るい太陽の下で力強く巣立つ若鳥を
愛情あふれる母の心で見守る

製作者：小坂圭二

(世田谷区在住／平成4年8月11日逝去)

新政策協会彫刻部会員

略歴：

- 1918 青森県野辺地に出生
- 1950 東京芸大卒業
- 1952 新作家賞受賞
- 1953 高村光太郎先生の助手 十和田湖畔に「乙女の像」制作
- 1958 十和田市、太素塚に「新渡戸伝翁」像制作
- 1960～62 フランス国立美術学校に留学
- 1963 竜飛岬に「吉田松陰先生詩碑」制作
- 1969 青森柳町「母子像」制作
- 1973 「断絶の中の調和」 パチカン現代美術館買上げ
- 1975 「小鍛冶」青森あすなる国体出品
- 1980 第一回高村光太郎賞展「人間、1980」優秀賞
- 1982 第二回高村光太郎賞展「漁どる人」優秀賞
- 1983 十和田市「新渡戸稲造」像制作
- 1989 上北町小川原湖畔に「玉代姫と勝代姫」像制作
- 1992 8月11日逝去

～大会 & 競技のご紹介～

本大会は、昭和 26 年から行われてきた「東京都身体障害者スポーツ大会」と、昭和 59 年から行われてきた「東京都知的障害者スポーツ大会（東京ゆうあいピック）」を平成 12 年に統合し、「東京都障害者スポーツ大会」として開催しています。

平成 18 年から、一部の個人競技種目に精神部門を設け、翌 19 年からは、全国大会に先駆けバレーボールを正式種目として実施するなど、「身体」「知的」「精神」の 3 つの部門で競技を行う、都内最大規模の障害者スポーツ大会です。

この大会は全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねています。今年は滋賀県で第 24 回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」（大会期間 10 月 25 日～ 27 日）が開催されます。

身体部門の個人競技は、障害の種類や程度によって区分され、それぞれの障害区分ごとに競技が行われます。知的部門の個人競技は、各年齢層に分かれて行います。

ルールは一般競技団体の規則を基にしていますが、各競技、障害によって工夫や変更がされています。

個人競技

◎=身体・知的・精神部門の種目 □=身体・知的部門の種目
○=身体部門の種目 ●=知的部門の種目

陸上（身体・知的・精神部門）

◎ 50m 走、◎ 100m 走、□ 200m 走、● 400m 走、□ 800m 走、
◎ 1500m 走、○スラローム、□走高跳、◎走幅跳、◎立幅跳、
○砲丸投、◎ジャベリックスロー、◎ソフトボール投、○ビーン
バッグ投、● 25m 走（車いす）、○ 30m 走（電動車いす）の
計 16 種目が実施されます。

◎視覚障害音源走（50m 走）

視力 0～0.01 の視覚障害者による 50m 競走では、フィニッシュライン後方で鳴らす音源を頼りに走ります。※音源走が難しい場合は、伴走者とともに走ることが認められます。



○スラローム

車いす使用者が参加する種目です。全長 30m のコースに置かれた 12 の旗門を、白の旗門は前進、赤の旗門は後進で通過します。



○ビーンバッグ投

重度の障害がある車いす使用者を対象とした種目です。大豆を入れた重さ 150g、12cm 四方の袋を投げます。投げ方は自由で、足に乗せてけり出すことも認められています。



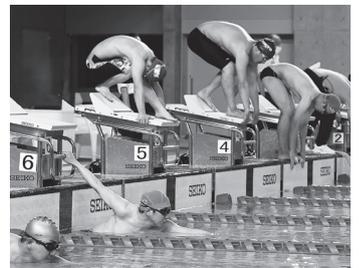
◎ジャベリックスロー

ポリエチレン製の長さ約 70cm、重さ 300g のターボジャブを投げてその距離を競います。ルールはやり投に準じますが、身体機能の面での緩和措置がなされる場合があります。

水泳（身体・知的部門）

種目は□自由形、□平泳ぎ、□背泳ぎ、□バタフライ、の 4 種目で、距離は種目に応じて、□ 25m、□ 50m があります。

日本水泳連盟競技規則に準じて行われますが、障害の種別によって水中スタートや浮助具の使用が認められます。また、視覚障害によりターンやゴールが判断できない選手に対しては、主催者に許可された者が、合図棒などで合図をしてもよいことになっています。



アーチェリー（身体部門）

全日本アーチェリー連盟競技規則に準じて行われ、リカーブ部門、コンパウンド部門があります。種目は 50m・30m ラウンドと 30m ダブルラウンドの他、初級者の参加を促すため、リカーブ部門は 18m ダブルラウンドと 12m ダブルラウンドも実施します。

卓球（身体・知的・精神部門）

日本卓球ルールに準じて行われますが、車いす使用者のサービスは、サービスされたボールがエンドラインを正規に通過しなければならないことになっています。また、身体的理由などにより通常のサービスができない場合は、ボールを自コートの上に落とした後、サービスしてもよいことになっています。

サウンドテーブルテニス（身体部門）

一般の卓球が困難な視覚障害者はアイマスクを着用し、専用の卓球台でボールを転がして得点を競います。ボールには金属球が入っており、転がると音が出るようになっています。

フライングディスク (身体・知的・精神部門)



5m または 7m 離れたアキュラシーゴール (直径 91.5cm の円形) にディスクを 10 回投げ、その通過回数を競うアキュラシーと、ディスクを 3 回投げて遠投距離を競うディスタンスがあります。どちらも投げ方は自由です。

ボウリング (知的部門)

アメリカン方式でハンディなしの 2 ゲームトータルのスコアにより順位を決定します。

ボッチャ (身体部門)

身体障害者が参加する競技です。自分のボールを横 6m 縦 10m のコートの中にあるジャックボールといわれる白いボールにできるだけ近づけるようにして得点を競う競技です。

障害が重いことでボールをうまく持てない、または離せない選手は、「ランプ」というボールを転がすことのできる補助具を使って競技することができます。コートに背を向けたアシスタントが、選手の指示に従い、ランプを動かしたり、ボールをランプに置く手伝いをします。

スポーツの集い (知的部門)

一般の競技に参加することが難しい知的障害児・者が参加する競技会です。種目は 30m 競走、100m 競走、大玉送り、つなびき、リレー、玉入れなどがあります。



団体競技

バスケットボール (知的部門)

リングの高さ、コートの広さ、ボールなどは一般のバスケットボールと同じです。チームで競うほか、以下の個人種目には 1 人でも参加できます。

① フィールドゴール

30 秒間に入るシュート数を競います。

② リバウンド

30 秒間、ボードにボールをパスし、ジャンプ捕球して着地に成功した回数を競います。

③ ドリブル

3m ごとに置かれた障害物を 30 秒間にドリブルで何個通り抜けるかを競います。

車いすバスケットボール (身体部門)

リングの高さ、コートの広さ、ボールなどは一般のバスケットボールと同じです。選手は障害の程度に応じて持ち点があり、1 チーム (5 名) が 14 点以下で構成されます。ボールを持ったまま 2 回まで車いすをこぐことができ、またダブルドリブルの規則が適用されないことが特徴です。

ソフトボール (知的部門)

フィールドの広さ、用具は一般のソフトボールと同じですが、ピッチャプレートまでを 12.19m として行います。

グラウンドソフトボール (身体部門)

視覚障害者が参加する競技です。通常のソフトボールのルールを基本にしています。投手は捕手の手ばたきを頼りにゴロで投球し、打者はボールの転がる音を頼りに打ちます。走者は各塁に配置されたコーチャーの手ばたきを頼りに走塁します。



バレーボール (身体・知的・精神部門)

6 人制で、身体 (聴覚障害)・知的部門ではコートの広さ、ボールなどは一般のバレーボールと同じですが、ネットの高さは身体障害部門では男子 2.43m、女子 2.24m、知的部門では男子 2.30m、女子 2.15m で行います。

精神部門では、ネットの高さは 2.24m でボールはソフトバレーボールを使用します。また男女混合でチームを編成し、女子が常時 1 名以上出場していなければなりません。

サッカー (知的部門)

フィールドの広さ、用具などは一般のサッカーと同じです。チームで競うほか、以下の個人種目には 1 人でも参加できます。

① ドリブル・シュート

5 つのコーンが設置されたコースをドリブルで通り抜け、シュートゾーンでボールを止めるまでの速さを競います。また、シュートが入ったところの得点がボーナス点として加算されます。

② ゲーム

個人種目参加者でチームを組み、試合を行います。

フットソフトボール (知的部門)

ソフトボールのルールを基本にしていますが、ピッチャーが転がしたボールをキックして攻撃を行います。守備位置や打撃の順番は野球やソフトボールと同じです。ただし、ピッチャーがピッチャーズサークル内でボールを保持している時にランナーは塁を離れることができません。また、走塁中のランナーは元の塁に戻らなければなりません。